

紫外線カットフィルムの効果確認



試験ハウス 7/7



慣行ハウス 7/7



左:試験ハウス 右:慣行ハウス

試験目的

紫外線カットフィルムの効果確認

試験作物
及び品種

トマト

試験資材
及び数量(規格)

クリンテートFXUV(0.15mm×900cm×51m) 1枚
 クリンテートFXUV(0.15mm×840cm×4m) 2枚

慣行資材

ダイヤスターUV

栽培方法

播種日	収穫日
6月1日	7月10日～11月15日

【栽植密度】 畝幅：160cm 株間：43cm 両サイド2列、真ん中1列、計5列で定植

資材使用期間

12月、通年仕様

試験区面積

270㎡
5.4×50m

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

フィルムの硬さや伸びについて慣行品と同等であった。

展張作業時に慣行品との差は感じなかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

慣行品も試験品も紫外線カットフィルムなので差はなかった。

紫外線カットの効果なのか、今年はトマトの割れが少なかった。特に後半寒くなってからは、割れの発生率が約10%から約5%程度に減少した。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：スリppsが全然つかない。ハウス内の樹脂製品、不織布等の劣化が抑制され資材が長持ちする。

【問題点】：紫外線カットの影響によりほうれん草の色づきが悪いときがあった。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

擦れによる破れや穴あきはなかった。フィルムがハウス幅方向に2枚繋ぎ加工になっているが、繋ぎ用に当てているフィルムの幅を大きくすれば天井パイプとの擦れによってフィルムに穴が開くのを防げるのではないかと感じる。

(5)雑草・病害虫の発生について

気候や条件によって違うが、紫外線カットフィルムが新しいうちは、灰カビ病が減る傾向にあると感じる。

モニター感想

慣行品と変わらない印象であった。慣行品は長期張型フィルムなので汎用品である試験品の方が安価であり魅力的である。今後の強度や紫外線カット効果の持続性が慣行品と変わらないか見ていきたい。

現在、フィルムを7～8年使用しており、フィルムが新しい方が収量が上がるのはわかっているが、資材コストが上がる中、フィルム更新の年数が増えている。余裕があれば5年を目途にフィルムを更新した方が良いかもしれない。

慣行品の紫外線カットフィルムでも4年目以降は、効果が薄れるのか病害が出てくる気がする。

JA担当者の感想(生産資材課 中田主任)

従来は0.15mm厚フィルムで紫外線カット品は価格の高い長期展張型しか無かったが、一般汎用品のクリンテートで0.15mm厚が出たので期待している。

今後のUVカット効果の持続性を見ていき、長期展張型と変わらなければ長期展張型に比べ安価なクリンテートFXUVを推進していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

将来希望する資材について

安価で、紫外線カットと遮光を兼ね備えた資材。